

令和7年度 大田区立出雲中学校 自己評価 報告書

令和8年3月3日

○ 本校の概要

◎ 教育目標 知性を高めよう 情操を豊かにしよう 健康な人になろう 「挨拶・笑顔・輝く未来」～自分たちの学校は自分たちで創る～  
◎ 目指す生徒像  
1 自分で考え、判断し、行動できる生徒(自律) 2 違いを理解し、他者を尊重する生徒(尊重) 3 失敗を恐れず他者と協働し、新しいことに挑戦する生徒(創造)  
生徒数 504名の大規模校であり、部活動は「地域の中のみんなの学校」として、チーム出雲中で生徒を支援する仕組み作りを実践する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成し 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	◎生徒アンケート「先生の授業は、教え方や教材の工夫がされていると思いますか。(電子黒板、タブレットの使用を含む)の肯定的な評価の割合 <b>【94.8%】</b>	4: 85%以上	4	・「主体的・対話的で深い学び」の推進を目指し、授業や学校行事の際、常に「振り返り」の指導を定着させたことで、生徒が客観的に成果と課題を考える習慣ができた。  ・生徒アンケート「あなたは自分と違う意見の友達とも感情をコントロールしながら話し合うことができますか。」の項目では、94.2%の生徒が肯定的な評価をした。2年前から16%も向上しており、本校の目指す生徒像である「尊重」が生徒の成長が感じられる。  ・生徒アンケート「あなたは自ら進んであいさつをしていますか。」の項目では、肯定的な評価が92%を超え、朝礼の機会を活用して「挨拶・笑顔・輝く未来」を合言葉として徹底した成果が表れた。  ・今後中学校でも導入される「おおたの未来づくり」を見据えてSTEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学の5つの分野を横断的に学ぶ教育概念)を推進し、実社会の課題発見・解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っていく。	A 7	・生徒アンケートのほぼ全ての項目において肯定的評価が高いことから「挨拶・笑顔・輝く未来」～自分たちの学校は自分たちで創る～という目標(スローガン)に向かって生徒一人ひとりが努力していることが伺える。「おおたの未来づくり」に向けても視野良好である。 ・12月の朝、登校途中の2人の女子生徒が後ろから来た私に道を空けてくれたので、お礼を言ったら一人の生徒が「今日も一日、元気に頑張ります」と挨拶してくれました。「頑張ってね!」と返して、こちらも元気をもらいました。 ・主体的・対話的な学びを推進する中で、生徒の不規則発言の扱いが難しいかと思えます。授業内容に関連する発言については先生方のご配慮で上手に扱って下さる場面を多く見かけますが、よろしくお願ひ申し上げます。 ・情報活用のコンプライアンスなどは親子で学ぶ機会(土曜公開)などを希望します。 ・「挨拶～」の取組項目を特に評価しました。A以上のSは無いのでAとします。 ・他者とのつながりという点でアンケートの結果からも自己肯定の向上が見られるが、授業公開等で見ると確かに以前よりも電子黒板やタブレットの利用は当たり前になってきたが、もっと工夫が出来るように感じられることもありました。 ・今年度のものづくりフォーラムに行き小中学校に導入されている「おおたの未来づくり」の取り組みと中学の現状を比べるとこれからは、肯定的な評価が92%を超え、朝礼の機会を活用して「挨拶・笑顔・輝く未来」を合言葉として徹底した成果が表れた。 ・今後中学校でも導入される「おおたの未来づくり」を見据えてSTEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学の5つの分野を横断的に学ぶ教育概念)を推進し、実社会の課題発見・解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っていく。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 75%未満				
お世個 お界別 たと目 つ標 担な2 うが 人 材 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協働する心や、協力を育みます。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	◎生徒アンケート「学校生活は楽しいですか。」の項目で肯定的な評価の割合 <b>【94.4%】</b>	4: 85%以上	4	・休み時間等に設定している「ふれあいタイム」で教員と生徒が談笑したり、悩みを聞いたりすることにより、信頼関係が生まれ、誰一人取り残さず、一人ひとりの生徒を大切に育てる姿勢が生徒の評価に表れた。 今後学校が安心・安全な場所となるよう推進していく。  ・地球規模の課題として、SDGsの観点から多摩川清掃等身近なところから興味関心をもた、課題を発見し、解決する力を育てることができた。 次年度は地域と協働した学びについて模索していく。	A 7	・「学校生活が楽しい」と思えることが一番である。「ふれあいタイム」を設定して、教員と生徒がコミュニケーションを図っていることが素晴らしい。日常の何気ない取り組みこそが大切なのだと、改めて実感した。 ・今は外国人の先生の生の英語が聞けて大変良いことです。これから英語は特に大切です。 ・外国にルーツを持つ生徒やALTの方々ご本人の了解を得た上で文化や価値観の違いなどを紹介していただくなど身近な国際理解の機会をつくっていただけると助かります。 ・ALTの方がER(不登校支援教室)の生徒と英語ゲームなどの交流を持ってくださり感謝しています。 ・おおた教育ビジョンの項目とも合致しており、評価できると思います。 ・折角の地の利、羽田空港に近いことをもっと上手く活用し、英語だけでなく様々なことで空港とのつながり強化を目指してほしいと思います。また、この地に残されている地域資源を活用し、それはこの地域で育っている子ども達だけでなく、教員にもその文化等を知ってもらうことが出来ることにより豊かな地域へと結びつけるかと思えます。 ・全国的にキャリア教育に力を入れる傾向ですが、子ども達には今すぐ職業を決めなさいと言われていたみたいですが、プレッシャーを感じている様です。キャリア教育は社会を知る機会であり、職業を決めることではないことをきちんと説明する必要があるかと思いました。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 75%未満				
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個性 力と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	◎生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いませんか。」の肯定的な評価 <b>【85.2%】</b>	4: 85%以上	4	・「自分にはよいところがあると思いませんか。」の項目に関しては、最上位の「そう思う」と回答した生徒が50%であった。これは2年前と比較すると11.5%も向上した。 日々の活動の「サンキューカード」や掲示、意見発表等の機会を捉え、生徒が相互に認め合い、尊重し合う姿勢が身に付いてきた表れである。 今後も継続していきたい。  ・小中一貫教育は定期的に話し合う時間があるが、特別な配慮が必要な生徒に対しての引継ぎ等が不十分なので、養護教諭や特別支援教室専門員も含めたきめ細かい引継ぎの方法について、模索していく必要がある。  ・「給食の献立に関する資料や放送によって食べることに興味をもちましたか。」の項目では、肯定的な評価が80.9%で、2年前と比較すると8.6%の向上が見られた。給食委員会によるクイズや給食、放送委員による献立の説明等、生徒自身が食に関する興味・関心を高める工夫を今後も継続する。	A 7	・生徒の自己肯定感が高いことに驚いた。これは日頃の取り組みの成果である。生徒同士がお互いに認め合い、尊重し合うことができるのは素晴らしい。理想的な姿である。 ・特別な配慮を要する児童・生徒の引継ぎは時間を惜しまずしっかりとやっていきたい。(小学校側としても) ・学校での先生の指導と家庭での協力が重要です。先生方は大変頑張っておられると思います。 ・助産師講演会は生徒たちが命について考える上で、大変貴重な機会です。いつもありがとうございます。 ・生徒たちが悪口として「死ね!!」「障害!!」という言葉を使用する場面を少なからず見かけます。「障害の社会でもある」=障害は心身の機能の問題ではなく社会の側にある」という考えや、人権感覚と共に学ぶ機会を増やしてほしいと考えます。 ・道徳の公開授業等も活発な様子が見られ、一つのテーマに対して各クラスごとに独自の取り組みがあったりと面白いものでありました。子ども達が授業中での意見発表を通じて自己肯定力、事故発信力を育てている姿も見られて発言する大切さだと感じられました。 ・学校運営教務委員会での給食試食会もとても良い取り組みでした。過去にはPTA等ではこのような試食会はありませんでしたが、この学運協のような地域の方々、今の給食を伝えていくことに理解に結びつく大事な機会になっていると思います。 ・小中一貫教育の情報の共有化は、昔から求められてきましたが、なかなか難しく中一プログラム等は決して中学だけの問題ではなく、本当の連携が必要で大切であると思えます。また、高校への情報の引継ぎも同じように大切にあり高校でも悩まれることも多々あり、その生徒の将来へもつなげることなので、そこも強化してほしいところです。 ・青少年の自死者数が記録を更新している現在、生きる力が弱くなっている気がします。多様性が認められる、心の学習が大切だと思いました。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 75%未満				
生徒が多様性を認め合い、グループでの話し合い活動等において自分の意見や思いを表現する取組を充実させ、自己肯定感を高める教育を行っている。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		4: 85%以上			D 0	・「授業で自分の考えを発表したり、友達と話し合ったりする活動をしましたか。」の項目では、肯定的な評価が92.1%であり、2年前と比較すると5.5%の向上が見られた。今後も対話を通して自分の考えを発信できるように育成したい。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。		3: 80%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 75%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 75%未満				

<p>学個別 校力 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す</p>	<p>校内研究等の OJTの充実を通 して、教師の授 業力を向上させ ます。また、質 の高い教育を現 在するため、学 校の組織的な運 営力を向上させ ます。あわせて、 教師がやりがい をもてるように できる魅力的な 環境づくりを進 めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p> <p>「わかる授業」の指導方法について試行錯誤し、授業改善(学び合い・ICT活用等)を意識している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。</p> <p>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>◎生徒アンケート「先生の授業は分かりやすく、質問に対してはよく答えてくれるか。」の項目に対して、最上位の「そう思う」と回答した生徒が47.3%であった。これは2年前と比較すると12.8%大きく向上し、教員が生徒に引き合い、適切な授業を実施しようと努力していることを表している。</p> <p>一方で、「あなたは授業の内容を理解し、学力が向上していると思いますか。」の項目では肯定的な評価は82.2%に留まった。個別最適化した学びについて、教員研修等を通してさらに取り組んでいく必要がある。</p>	<p>4: 85%以上</p> <p>3: 80%以上</p> <p>2: 75%以上</p> <p>1: 75%未満</p>	<p>4: 7</p> <p>3: 1</p> <p>2: 0</p> <p>1: 0</p>	<p>・生徒のアンケートからも教員が分かりやすく丁寧な指導を心掛けて実践していることがわかる。また、日頃から教員が生徒一人ひとりに温かく笑顔で対応している場面をよく見かける。(授業中はもちろん、それ以外の時でも…)そのためには、時間的、精神的なゆとりが必要である。これからは、働き方改革を進めながら、心にゆとりをもって効率的に業務を進めていくことが大切である。</p> <p>・先生方はいつも前向きに授業内容など努力しておられると思います。</p> <p>・先生方の授業は皆さん工夫されていて、テンポも良く分かりやすいと感じます。ご指導、ありがとうございます。</p> <p>・放課後・土曜日の補習の項目が気に入りました。</p> <p>・これは決して本校だけの問題ではなく大きな教育の問題であるところの教員の指導力格差を感じます。若手、ベテランとOJT等で相互学習もされて学力的なことは経験値等でこれからの向上は考えられるので良いかと思えます。</p> <p>・気になった点は、教室で感じる、本当に見てほしいこと、日頃の細々としたこと、厳しさと信頼関係に向けたこと、そこの一言の重さ等、普通の姿がとも上手にやられる教員の方の力を伝えたいと思えます。</p> <p>・出雲中でのICTの活用はすっかり定着してきたと思えます。</p> <p>・教師の働き方改革が進む中、部活の外部委託化等で教師の役割も明確になってきていると思えます。ますます授業力の向上に励んでもらえたらと思います。</p>
<p>た自個 め別 ら目 学学 び目 をい 支支 援援 しし きと ま生 す生 きる</p>	<p>困難のある児童・ 生徒一人ひとりの 状況にあわせて 教育環境を整え るとともに、相 談機能の充実を 図ることで、す べての児童・生 徒が自分らしく いきいきと生活 するための学 びを支援しま す。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p> <p>不登校傾向の生徒に対し、寄り添いながら保護者や関係機関と連携して安心・安全な居場所につなぐよう支援している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満の教員が回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満の教員が回答した。</p> <p>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>◎生徒アンケート「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいると思いますか。」の項目では肯定的な評価は91.4%であり、2年前と比較し10.8%大きく向上した。いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、教職員が学年の枠を超えて対応したことが大きな成果につながった。また、あいさつ運動や、保護司、保護司OBによる見守り等、学校、保護者、地域が一体となって健全育成を図った成果でもあると捉えている。今後も継続したい。</p>	<p>4: 85%以上</p> <p>3: 80%以上</p> <p>2: 75%以上</p> <p>1: 75%未満</p>	<p>4: 7</p> <p>3: 1</p> <p>2: 0</p> <p>1: 0</p>	<p>・生徒による高い肯定的な評価は素晴らしい。学校の組織としての取り組みはもちろんのこと、地域との交流や連携による成果だと思える。多様な地域との交流からも、まさに地域の中の学校と言える。</p> <p>・大きな成果となっているERについて、その取り組みの詳細をもっと理解し、本校でも取り入れていきたい。(小学校より)</p> <p>・不登校や教室に入れない生徒に対し、別の場所を用意したり講師を派遣し生徒の学校生活を援助しています。</p> <p>・カウンセラーの先生方が精力的かつ丁寧に相談のつてくださり大変ありがたいです。</p> <p>・インクルーシブ教育システムの構築上、「マジョリティの意識の変容」が重要だと学びました。また「要配慮生徒群」が常に固定されてしまうことにも自覚的である必要があることと、周辺生徒の支援のかけがえのなさを排除しないムード、また、場面ごとの幅広い合理的配慮についても、親子で学ぶ機会があると良いと思えます。</p> <p>・別室での教育活動の取組について評価しました。</p> <p>・不登校生徒のためのER(校内別室)がとてもしっかり機能していることからも、また、その生徒達がERを通じて本来の教室へ戻ることが出来た事例など、学校の子どもの連携等も、何を第一に考え活動しているのか伝わってきました。ERに集まった子ども達の顔つき、様子が変わってきたことがストレートに感じられ、環境整備やその受け入れ対応、支援体制についてきめ細やかな取り組みが感じられました。いじめ等に対しても校内で同一の見解を持った取り組みがあり、落ち着いた学校に結びついていて感じています。何かあった時でも、校長・学校からの情報伝達があり、これはなかなか難しいことながら地域を含めての問題意識の共有と信頼への構築となっています。</p> <p>・出雲中での不登校の生徒達への配慮はとて進んでいると思えます。無理に教室に戻す必要はなく、それぞれの個性が伸ばせる環境が作れたらと思います。</p>
<p>安柔個 心軟別 なで 目 教創 育造 環6 境な を学 習く 置り 間と す安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>◎生徒アンケート「あなたは自分の行動で学校をよりよくしていますか。」の項目では肯定的な評価は79.2%であった。2年前と比較すると7.2%の向上が見られるが将来社会を支える人材となることを考えると十分とは言えない。生徒が学校と社会が繋がっていることを理解し、学んだことを生かしていき、姿勢を支えることで、生徒の意識も変わっていくと考えるので実践していきたい。</p>	<p>4: 85%以上</p> <p>3: 80%以上</p> <p>2: 75%以上</p> <p>1: 75%未満</p>	<p>4: 4</p> <p>3: 4</p> <p>2: 0</p> <p>1: 0</p>	<p>・生徒アンケートの結果は、生徒が謙虚に答えている結果とも考えられる。多少時間がかかるかもしれないが、必ずや肯定的な評価が上昇していくであろう。今はまさに「大人の階段」を上るための準備期間と言える。</p> <p>・学校や地域、家庭と連携して安全についての情報を発信して共有することが大切と思えます。</p> <p>・防災教育や安全教育は地域と連携して行うことが出来るのでぜひ地域と連携して行ってほしい。また、生徒の委員会活動でも「防災委員」や「安全委員」などの設置も日常的な安全意識の向上につながると考えます。</p> <p>・不審者対応の件もふまえて総合的に評価しました。高校側も協力体制でできることばと思っています。</p> <p>・普段から子ども達の行動は規範意識が感じられることもありアンケートからも学校や地域のきまりやルールに対して大切にしていることが伝わってきます。この様な思いが自覚につながっているように感じられます。校門の施錠も厳しく管理されていると思えます。</p> <p>・評価はちょっと厳しい気がしますが、一般的な安心・安全な環境づくりの基準は満たしていると思えます。</p> <p>・不審者対応訓練については、蒲田警察のご協力で全校に講話をしていただく等連携することができた。次年度も連携を密にして危機管理能力を身に付けさせたい。</p>
<p>学地学 校域校 をコ・ 目ミ 家 く庭 7 リニ まテ 地 す域 の核 連と 携し て協 働の 働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>◎生徒アンケート「あなたは将来、人や社会のために役に立ちたいと思いますか。」の肯定的な評価</p>	<p>4: 85%以上</p> <p>3: 80%以上</p> <p>2: 75%以上</p> <p>1: 75%未満</p>	<p>4: 6</p> <p>3: 2</p> <p>2: 0</p> <p>1: 0</p>	<p>・出雲中の生徒が、地域行事を中心に様々な活動場面において大活躍している。出雲中の生徒を見ない日はないというくらい…。これだけ学校外でも活躍する生徒が増えた背景には、出雲中の組織一丸となった地道な教育活動の努力があったことと思う。</p> <p>・「レモネードスタンド」として、小児がん支援の活動を行っていることに感動した。素晴らしい活動である。</p> <p>・朝の挨拶運動に参加しました。生徒は早めに登校し元気に挨拶を返してくれました。</p> <p>・家庭や地域を対象とした学びの場についてより一層推進していく必要を感じている。</p> <p>・前回の協議でのPTAの関わりについての課題について総合的に評価しました。</p> <p>・近隣の中学校と比べても地域とのつながりを大事にしていると感じられます。特に町会と生徒会役員との意見交換会は地域と子ども達が様々な意見や考えを直接伝え合う貴重な機会であり素晴らしい取り組みで今後にもつなげていきたいと思えます。また、町会や保護司、民生委員、PTA、OB等のメンバーで続けている毎学期ごとの数日間の挨拶運動も子ども達の現状を一緒に見てもらいながらも学校へ来てもらいたい機会としてとらえてほしいと思えます。</p> <p>・スマイルサポートによる英語検定、漢字検定準備会は面接のいい取り組みをしており、子ども達にも伝わってきているが、学力向上に向けた勉強会への参加者の減少はスマイルサポートの課題としてとらえております。</p> <p>・地域と学校の繋がりは、生徒会と地域の懇談会等、良くなっていると思えます。今後とも、色々なボランティア活動を通じて、ますます地域で活躍する出雲中生を期待します。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す